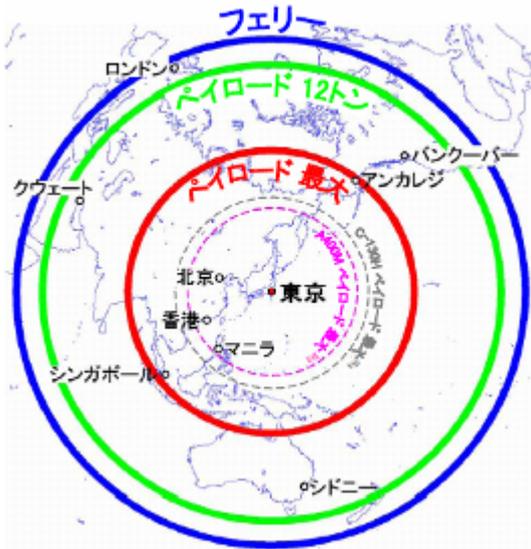


資料10 YCXの航続性能



- 航続性能に優れるため、二地点間輸送が多いと想定される大型不定形貨物の輸送に適する。
- YCXは12トンのペイロードを搭載してオーストラリア、アジア地域を完全にカバーできる。

ペイロード	航続距離 <sup>※1</sup>
最大	5,600 km (3,000 nm)
12トン	8,900 km (4,800 nm)
フェリー <sup>※2</sup>	10,000 km (5,400 nm)

※1 No Wind, ISA + 3PR Reserve (ML-C-5011A)  
 ※2 機体の移動を目的とした貨物を運送しない運航  
 ※3 エア・スペース・タリー社資料より  
 ※4 米海軍HPより

出典：川崎重工資料

資料11 YCXの高速・高空性能

貨物室寸度および機体規模が競合するA400Mと比較して、YCXは、整備コストが低く、高速・高空性能も勝るため、民間運用に適する。

経済性

YCX:ターボファン双発(実績あるCF6×2)



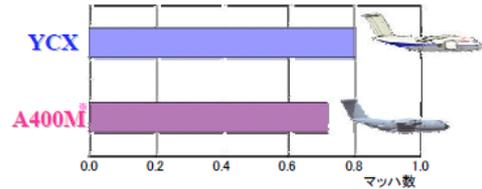
A400M:ターボプロップ4発

(新開発のターボプロップエンジン×4+新開発のプロペラ×4、内側と外側では逆回転)



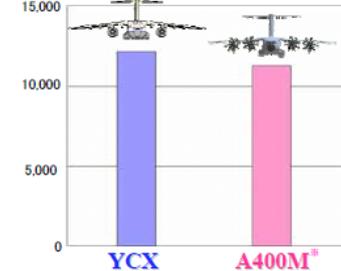
高速性能

(最大巡航速度)



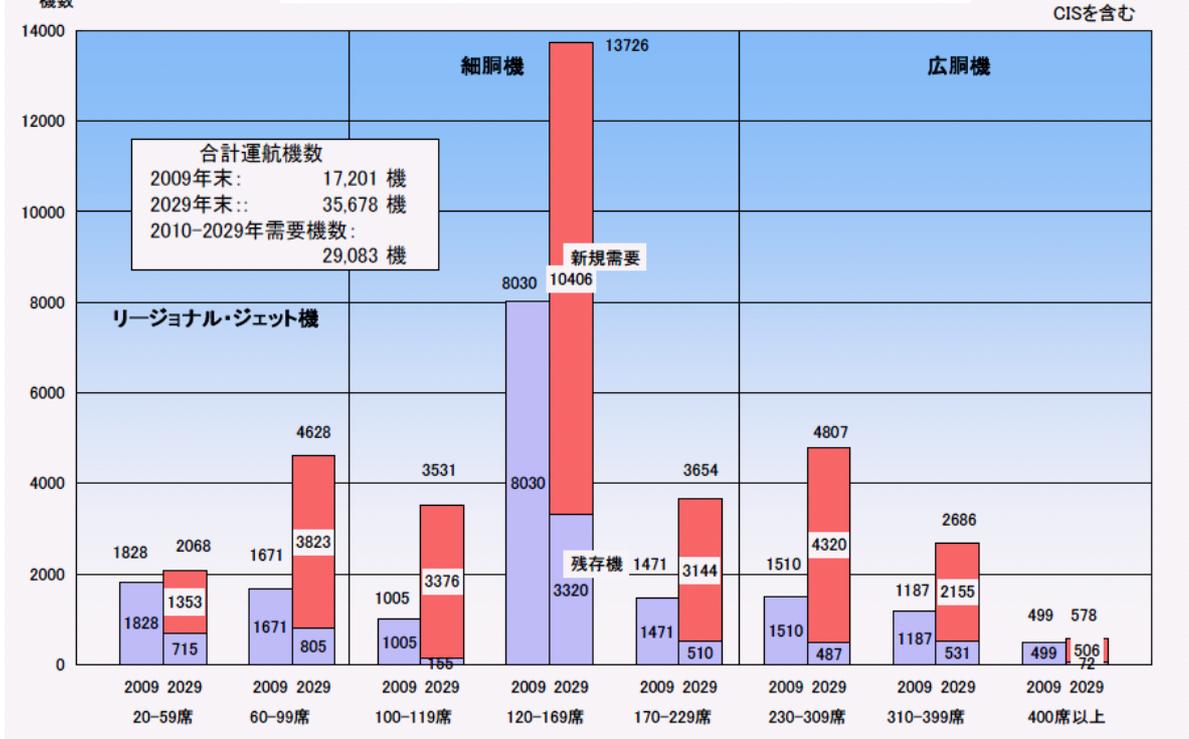
高空性能

(最大巡航高度)



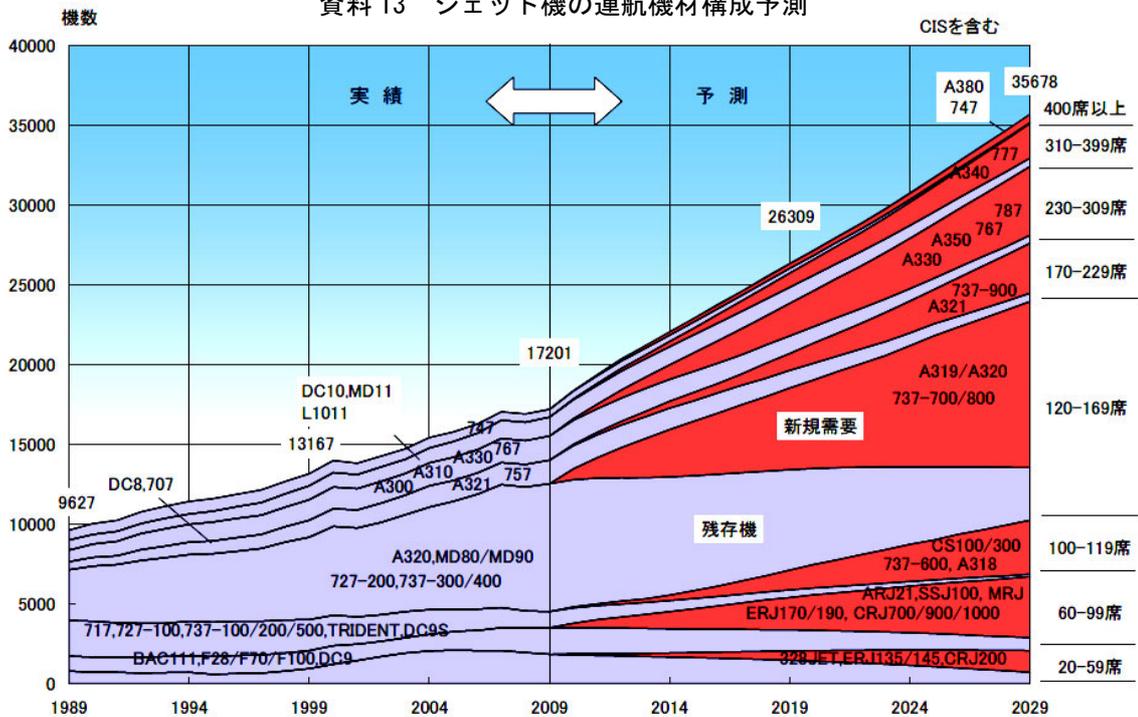
出典：川崎重工資料

資料 12 サイズ別ジェット機運航機数及び需要予測



出典: 「平成 21 年度 民間輸送機に関する調査研究」  
 (財団法人 日本航空機開発協会)

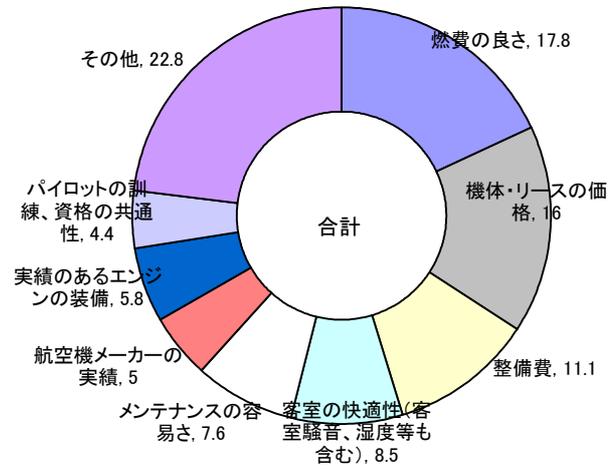
資料 13 ジェット機の運航機材構成予測



出典: 「平成 21 年度 民間輸送機に関する調査研究」  
 (財団法人 日本航空機開発協会)

資料 14 航空機選定にあたり重視する事項

単位：%



出典：「「中小型ジェット旅客機の開発促進」事業に係るアンケート調査（平成 21 年 10 月）」（東京都）